



2011.3.11 東日本大震災

# 現地支援委員会

ニュースレター

from 東北

「第18号」

2015年7月22日

全国諸教会の皆様、日頃から祈りと献金によるお支えと励ましをありがとうございます。東北も震災後5回目の暑さ厳しい夏を迎えています。仮設住宅で暮らしている方々にとって、先の希望の見えないまま、心身ともに厳しい日が続いています。どうかその方々の暮らしをおぼえてお祈りください。今号は、野田村支援活動の報告、宮城チームで不定期に開催している「ミニアゴラ」の活動を紹介します。

\*「アゴラ」は広場を意味する言葉で、「あなたとわたしの 相ゴで 語らう 震災・支援・信仰・聖書」を分かち合う集会、「ミニアゴラ」は宮城チーム会議版です。

## 野田村支援活動報告

2011年8月から始まった野田村仮設住宅訪問活動ボランティアも、今回(2015年7月)で47回目となりました。現在、野田中で午前、泉沢で午後にお茶会をしています。私たちが着く前から、皆さんが集会所の外で心待ちにしている姿を見かけるようになりました。また社会福祉協議会の担当職員の方が、机などのセッティングをして、すぐにお茶会ができるようにして下さるようになりました。最初は、私たちが「訪問する」ということで始まったお茶会が、訪問先の皆さんと共に創りあげる、お互いに大切なものとなってきたのだと感じています。

お茶会に参加して下さる方のほとんどが女性の方たちですが、時々男性の方も顔を出してくれるようになりました。全国の諸教会から送られてくるお茶菓子やお土産を、皆さんが楽しみに待っていてくださいます。お菓子を味わいながら、送ってくださった教会や個人の方々の様子などを訪問先の皆さんにお伝えすることで、この活動が多くの方々に支えられていることに改めて気付かされます。「震災当初は多くの人たちが訪問してくれたけど、定期的に訪問してくれるのはバプテストさんだけになった」とお聞きしました。次第に震災が過去になりつつあることに、皆さんは寂しや危機感を感じられているのではないのでしょうか。

この野田村仮設住宅訪問も、8月でもうすぐ丸4年となります。特に最近、仮設住宅を訪れるたびに入居者数が少しずつ減り、2011年8月に最初に訪れた時には195世帯(5か所)でしたが、今回は78世帯(3か所)でした。野田村では津波で被災した皆さんが高台移転しますが、その一番大きな場所が「城内地区高台団地」(新町)で、現在工事が進んでいます。予定では2016年3月に復興住宅が完成し入居する予定です。

「もうひと冬越せば」との皆さんの声を聞く時、どんなにか入居できる日を待っているのだと心が締め付けられる思いがします。

海岸防潮堤復旧工事も進んでおり、防潮堤ができたところから海を見ることができなくなりました。野田村に来るたびに美しい海の景色が見えていましたが、これも復興が進んでいることなのかと複雑な思いを抱かれます。

仮設の皆さんが少しずつ復興住宅に移り、自宅を再建されるなりして転居され、それぞれの新しい生活に向かって仮設住宅を後にされたことは喜ばしいと思う反面、これまで来られた方の姿が見えず、少しずつお茶会の人数も減ってきていることに一抹の寂しさも覚えます。それはお茶会に集って下さる方も感じておられることのように、「一人になっても『お茶会』を続けてほしい」「転居した先でも『お茶会』をしてほしい」などの声をかけられます。今後の活動についてどのようにしていくことが皆さんにとって最善なことなのか祈られます。多くの方々に支えられてきたことに感謝すると共に、これからの支援の働きのために、何よりも仮設に住んでおられる方、新しい生活を始められた方のために、引き続きお祈りください。

(鮫教会 林 健一)



野田中集会所 お茶会



泉沢集会所 お茶会



城内高台工事

## 『ミニアゴラ』活動のご紹介

東日本大震災から4年が経ち、復興が進められている一方、被災地には多くの問題に加え、新たな痛みが浮き彫りにされるという現実があります。

宮城チームは、『ミニアゴラ』を続けて開催しており、これまで数回にわたり放射能問題について語り合いを重ねています。今回は、6月12日、仙台教会にて行われ、「放射能汚染を考える」をテーマに、放射能汚染問題に関する講演内容(動画):「放射能汚染地図の“これまで”と“これから”」(木村真三氏)を資料として用い、自由な語り、交わり、分かち合いの時をもちました。

放射能汚染地図から福島第一原発事故による放射能汚染は、福島県や宮城県だけではなく関東地方など広範囲に広がり、県境のみならず国境を超えて汚染されたこと、海洋汚染は未知数などの現状を初めて知った参加者からは、驚きの声が聞かれ、自分の生活をするとところの状況を詳しく知らされていないことを改めて感じています。

また、福島県の県民健康調査甲状腺検査(事故発生当時18歳以下)結果の公表されているデータの詳しい解説から、深刻な実態も知りました。

さらに、チェルノブイリ原発事故から29年の今、現在でも被ばくにより苦しんでいる人々がいること。真摯にこの出来事に学ばなければならないと思います。

「福島」ではなく被ばく地としての“フクシマ”に生きることから見えてくる現実、そして“フクシマ”の痛みを負いつつ日々を生きる人々、その一人おひとりのかけがえのない命、人生、生活・・・

このような状況の中、教会が本当に大事なのだと思います。

聖書のみ言葉に聴き、共に祈る。様々な立場、意見の違いがあってもお互いの意見・思いをよく聞き合う、語り合う。『ミニアゴラ』はそのような場の一つであると感じています。

私たちは主イエス・キリストの繋がりにおいて、共に祈ることができ、主の先立ちにより歩み、分かち合いや共に働くめぐみが与えられています。

主に連なる教会、伝道所の皆様、今後とも覚えてお祈りとお支えをいただければ幸いです。

(南光台キリスト教会 笠松絹子)



2013年1月 第1回アゴラ



かつて現地支援委員会のメンバーとして、また東日本委員会建物担当として被災地支援の働きを担って下さっていた、古川 力兄(仙台長命ヶ丘教会)が、2015年7月10日(金)17時29分に召天されました。古川兄は、ご自宅での事故により脳に損傷を受け、徐々に機能が低下し、入院しておられました。兄は、特に大槌町の仮設住宅集会所の建築やベンチ作りなどにおいて中心的な働きを担っておられました。古川兄のお働きに感謝しつつ、ご家族の慰めをお祈りいたします。

(現地支援委員会委員長 金丸 真)